

スパイス



ひとつまみ加えるだけで、料理の味を引き立てるスパイス(香辛料)。人生をより幸せなものにするためには、どんなスパイスが必要でしょうか。環境が揃っていることはもちろんですが、他には何があるでしょう。



二めいごごの50年

迫間公民館の近くに住む神谷さん夫婦は、今年で結婚50年。製材所を経営していた八郎さんに、銀行員だった砥子さんとの思い出話を持ち上がったことで2人は出会いました。お見合いから交流を深めていき、8カ月後の昭和36年3月に結婚しました。

50年の結婚生活を振り返り、あつという間だったと砥子さんは話します。「製材所を経営していた頃は、3度も水害に遭いました。楽しいこともありましたが、苦労もありましたね」と、八郎さんも当時を振り返ります。

結婚生活の秘訣を聞くと、共通の趣味を持つことが大事だと、口を揃えます。グラウンドゴルフが好きで、いろんな大会で優勝しているそうです。「趣味のことで話ができるし、大会があれば一緒にいきます。行くまでの計画も一緒に立てられる。老人会などの旅行も2人で参加しています」。砥子さんが楽しそうに話します。「おもしろさを糧にした健康づくりですね。動くことが好きなんです」と八郎さんが答えます。

二何事も前向きに考えること

4年前、砥子さんが交通事故に遭いました。それから2年間、入院の繰り返しです。事故がきっかけで、家事を勉強するようになった八郎さん。今でも、家事を手伝い、自分の物は自分で整理し、朝食も担当するそうです。「それまで

は、シャツやくつ下も用意してあげないと分らなかったんですよ」と砥子さん。「男女共同参画についても勉強しました。それからは自分のことは自分でやるようにしています。人生は苦労が付き物ですから。前向きに考えるようにしています」と八郎さんが笑います。

2人は25年前に、迫間地区へ引っ越してきました。その頃には、子どもたちも成長し、ほとんど2人での生活になったそうです。「でも退屈はしません。お互いの意見を聞いて、お互いを理解するようになっています」と話す砥子さんは、八郎さんのことなら大抵のことは分かる自信を見せます。「お互いに思いやりを持たないとだめですね」と砥子さん。そこに八郎さんが続けます。「言いたいことは言う。だけど、いつまでも根に持たない。お互い、いろんなことで相談します。相談できるからいいのかな。なんでも話せるようになることです」。

健康にも気をつけている2人。自分の健康につながる趣味を持つようにしている八郎さん。砥子さんも、公民館で開かれるカラオケ教室に参加するなど、「外に出て、みんなと会って、話すことが大事なんです」と健康の秘訣を教えてくださいました。

これからの目標を伺うと、「70歳のとき、80歳まで生きると息子に言いました。だけど、77歳になってもまだまだいける。だから5年延ばして、85歳まで生きることになりました。次は90歳を目標にしています」と八郎さんがにっこり。砥子さんと顔を見合わせ、楽しそうに笑いました。



夫婦円満の秘訣とは

かみや はちろう ていこ
神谷 八郎さん・砥子さん

会話が途切れないほど仲の良い2人は、グラウンドゴルフが共通の趣味。2人だけの生活になっても「退屈しない」と笑います。なんでも相談して、けんかもしながら、50年の結婚生活を送ってきました。スモモや榿の木が植えられた広い庭も自分たちで手入れをします。「いつまでやれるかが、健康のパロメーターでしょうね」と八郎さんは笑います。

50年目のありがとう

金婚式とは、結婚して50年の節目に、夫婦で共にした人生を祝うものです。今年は、156組の夫婦が金婚式を迎えました。

平成23年度菊池市金婚夫婦表彰式は、9月17日、菊池市文化会館大ホールで開かれ、金婚を迎えた夫婦など約300人が参加しました。式では、表彰者を代表して、立町区の工藤松夫さん・京子さん夫婦が、賞状と記念品を受け取りました。夫婦がお互いへの感謝を手紙にした「感謝の言葉」では、北住吉区の青木家次さんが、妻の満さんへ宛てた手紙を朗読。また、荒牧区の富田君代さんから、夫の哲夫さんへ宛てた手紙が朗読されました。最後に、表彰者を代表して、伊秋区の安武義公さん・ヒラキさん夫婦が、「苦しかったことより、楽しかったことの方が思い出されます。これも皆さんのおかげです」と謝辞を述べました。

結婚を祝う風習は、昭和27年、明治天皇が銀婚式のお祝いをされたことがきっかけで一般に広がったといわれています。節目ごとに名前が付けられ、1年目の紙婚から25年目の銀婚、60年目のダイヤモンド婚などがあります。

今年、金婚を迎えた夫婦の平均年齢は約75歳。平成23年3月末現在、本市の高齢化率は27%を超えました。約4人に一人が65歳以上という超高齢社会を迎えています。「第4期菊池市老人保健福祉計画及び介護保険事業計画」では、平成27年度までに高齢化率は30%となり、約3人に一人が65歳以上になると予想されています。金婚を迎え、さらに年齢を重ねても幸せに暮らしていく。誰もが願っていることでしょう。



金婚夫婦を代表して謝辞を述べる伊秋区の安武義公さん・ヒラキさん夫婦